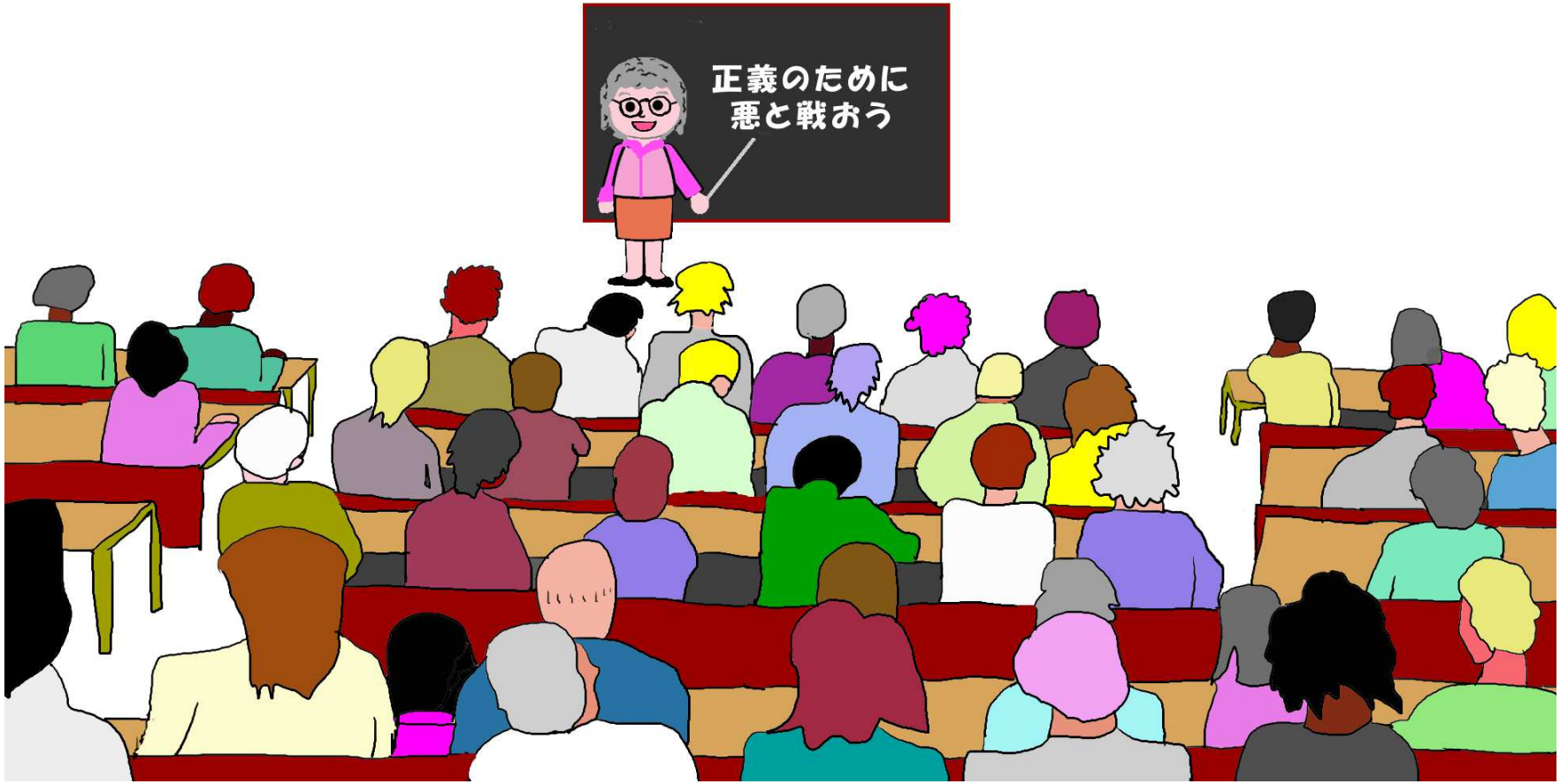
善悪という命令－１０

やるか、やられるか

東郷　潤

悪と戦わなければいけない、と信じている人々は、世界中に無数にいます。



ある日、正義を愛する人達が、誰かを悪だと思って、攻撃を始めました。

正義の戦いに勝つために、もちろん、他の人にも呼びかけます。

なんだ、お前は悪の味方か？
ならば、お前のことも攻撃するぞ
あ、一緒に戦います

彼らは次々に、他の人々にも呼びかけました。悪との戦いには、何が何でも勝たなければいけません。

誰も殺されたくはありません。戦う人は、こうして、どんどんと増えていきました。

お分かりでしょうか？　善か悪かという錯覚が支配する世界では、善でなければ悪。だから・・・

このため、苛めや虐待や戦争に協力するのは簡単でも、止めることはとても難しいのです。

もしあなたが、
やることも／やられることも、
お嫌なら、

善悪の錯覚の打破へ
ご協力ください

銃口を突きつけられる前に

あとがき　―絵本「やるか、やられるか」

善悪という考え方／言葉は、本当に様々な錯覚を生み出します。 そして、これらの錯覚は人類の長い歴史の中で、多くの悲劇をもたらして来たと考えることが出来ます。（詳細は、下記ＷＥＢの絵本集、 弊著「善悪中毒」、 「原爆への復讐」をご参照ください）。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記ＷＥＢからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2011